

平成31年度 第 11 回教育委員会定例会

議決事項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第 1 号 平成 30 年度垂水市一般会計補正予算（第 5 号）案についての市長への意見申出について</p>	<p>平成 30 年度垂水市一般会計補正予算（第 5 号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第 1 号 平成 31 年度垂水市一般会計当初予算案についての市長への意見申出について</p>	<p>平成 31 年度垂水市一般会計当初予算案の作成について、差し支えない旨回答しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承 認</p>

平成30年度 第 11 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成31年 2月12日 (火)</p> <p>午後 2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後 4時15分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 坂元 裕人</p> <p>教育委員 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p> <p>教育委員 田之上 厚美</p>	<p>教育総務課長 紺屋 昭男</p> <p>学校教育課長 明石 浩久</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成30年度第11回教育委員会定例会を開会した。
議案第1号は非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

2 平成30年度第10回定例会会議録の承認

承認

3 議 事

報告第1号 平成30年度垂水市一般会計補正予算（第5号）案についての市長への意見申出について

議案第1号 平成31年度垂水市一般会計当初予算案についての市長への意見申出について

4 その他

なし

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議事内容等

3 議事	報告第 1 号
教育総務課長	平成 30 年度垂水市一般会計補正予算（第 5 号）案についての市長への意見申出について
	平成 30 年度垂水市一般会計補正予算（第 5 号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告した。 （質疑なし）
	議案第 1 号
	平成 31 年度垂水市一般会計当初予算案についての市長への意見申出について （教育総務課） （非公開）
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長の報告に入る。
野村委員	<p>1. 「協和小学校学習発表会について」</p> <p>2月9日(土)、協和小学校の学習発表会に出席した。9時にスタートした今年の学習発表会のスローガンは「協力和合・望み大きくたくましく」であった。</p> <p>まさに、スローガンどおりで、子どもたちは元気いっぱい、みんなの笑いを誘ったりしながら、たいへんな張り切りようであった。</p> <p>インフルエンザでしばらく休んでいた児童も回復して、全児童そろって参加できたと先生方も喜んでいました。</p> <p>一年生の開会のあいさつも、しっかりしたものであった。一年足らずで、プログラムのトップは、「協和寄席」と題して、落語の「まんじゅう怖い」を一年生4人全員で演じていたが、これがまた大変な出来栄で、長い台詞をつまづくこともなく、流暢に語るどころなど不思議なくらいで、すごい能力だなあと感心した。</p> <p>とりわけ全体の発表の中で、2年生の音楽劇「アナと雪の女王」は大変ユニークな演技設定で感動した。</p> <p>大型スクリーンに映し出された映像に合わせて、児童の登場人物たちが一人、あるいは二人で台詞を歌で表現するという細かく工夫された歌劇の形で演じていた。スクリーンの映像のパーツごとに、ナレーションで場面</p>

の説明を入れながらの展開で、演出の趣向を凝らした歌劇であったと思う。
小学生の低学年でも、「ここまでやれるのか」という驚きの感想を持った。
それからもう一点挙げれば、今までにない試みとして、職員全員による朗読劇「かさじぞう」が演じられたことである。12名の先生方による気持ちのこもった懸命な朗読に観客の方々の盛り上がり、拍手喝采、子どもたちも大きな声援を送っていた。
学習発表会が終わったあと校長先生に、来年度も是非先生方の出番を計画してくださるようお願いし、会場を後にした。

田原委員

1. 「水之上地区公民館の一日研修について」

2月10日(日)、水之上地区公民館役員16名で一日研修に参加し、場所は福山町の佳例川地区公民館で研修を行った。

この地区は、10集落、178戸、308名で、65歳以上が54.8%の限界集落でありながら、大崎町へ流れ出る菱田川の源流域にあたることから、そこで採れる米を有機栽培し「佳例川源流米」としてブランド化して売り出し、昔から栽培していた「つるなし源氏」という芋を原料にした焼酎「蔓無源氏」を国分酒造が製造して、集落は芋を手広く栽培し、集落内に焼酎の販売所も作っていて集落活性化の資金源となっていた。

霧島市が限界集落の活性化のために地域に支援制度を作り、市役所職員を派遣し、公民館役員が中心となって65年ぶりに集落の神社の「お田植え祭り」を復活させたそうで、その祭りには校区民だけでなく、鹿児島大学農学部の学生や福山高校の学生、地域にある企業のトヨタ車体の職員も一緒に参加しているそうであった。

その他、合同運動会や校区ウォークラリーなどの終わったあとの飲み会の話し合いの中から、次々に新しい行事案が生まれ、いろいろな行事を計画し、人が集まるようになり、今では元気な限界集落になっていた。作った米は、モミすり機械で精米するのは能がないとのことで、水車を作って、水車を回し、そこでモミをするなど自然を生かした仕掛けが、営農なのであろうと思った。

この地域は、平成29年度総務省の「地域づくり大賞」を受賞され、今では集落への視察者が押し寄せてくるとのことであった。

新たなものを求めるのではなく、昔からあったものを地域の宝として受け継いでいく。高齢者ばかりであるが、若者の力がほしいときには、大学や高校、企業などの力を借りたらよい。また、市の支援員は佳例川出身者で、この地区公民館の副館長も担っていた。

このように行政と地域が、密接に手を取り合っているところに、佳例川地区のよさがあるのだと感じた。大変よい研修であった。

2. 「千葉県野田市の小学4年生への虐待死について」

新聞、テレビの情報でしか分からないが、子どもを死ぬまで虐待し続けた父親、そばにいて止められない母親、このような残酷で異常な虐待事件は、これまでの事件では見られなかったように思う。

子どもの助けを求めるアンケートを父親に渡してしまった教育委員会や一時保護を解除して父親のもとに帰してしまった児童相談所など、様々な

失敗が重なってしまっている。
 このような親権を笠に着た異常な親に対抗するには、学校、教育委員会、児童相談所、警察が一体とならないと対処できないのではないかとと思われる。特に今回は、警察の力が必要なように思われる。
 このような組織が、一緒の場で協議する場ができなくても、それぞれが絶えず状況を把握し続け、情報を常に共有化し、すぐに連携して動ける体制を取っておかなくてはならないと思う。
 われわれの中にも、児童相談所に預けたら、安心してしまっていないかと反省してみる必要がある。
 今回の事件は、児童の命を絶対守るという点から、それぞれの組織や機関が、どう動けばよかったのかを重く受け止めて、考えなければならないと思った。

葛迫委員

1. 「第2回垂水市生涯学習推進会議について」
 2月5日(火)、平成30年度第2回垂水市生涯学習推進会議に出席した。
 協議内容としては、①本年度の生涯学習推進事業の実績、②来年度の生涯学習推進事業の計画案、③来年度の生涯学習市民講座の開講、④来年度の生涯学習のオープニングフェア開催、⑤来年度の生涯学習企画委員会及び推進会議の開催についての協議がなされた。
 本年度の実績として、市民講座に239名が登録し受講、出前講座には700名の市民が講座を受講したと説明があった。
 その中で、市民講座の受講者の内訳は、50～60歳代の女性が多く占め、男性の受講者が望まれるとのことであった。
 来年度の講座内容として新しく、「コケ玉盆栽」や「よさこい踊り」、「マジック」など6講座が示された。この講座は今までにないもので、来年度は楽しみだなあと思った。
 今後2020年度からのオープニングフェアについて事務局より、「もっと内容を充実し工夫したい」との申し出があり、今後の新たな問題提起が投げかけられた。
 このことで思ったことは、本年度のオープニングフェアでは、生涯学習のオープニングフェアの後、「子どもの夢と感動を育む絵画ギャラリー」のオープニングイベント、「和田画伯の顕彰碑移転及び記念モニュメント建立記念式典」イベントが行われ、意義ある素晴らしいオープニングではないかと思った。
 今後も、このようなオープニングフェアに付随するイベントを考えることで、人が集まり、そこに市井(しせい)ができていき、語らいもできていく。そのことによって、子どもたちや地域住民の「学習する意欲を高めることができる」そのようなイベントが必要ではないかと感じることだった。

田之上委員

1. 「児童委員研究協議会の出席について」
 1月22日(火)～23日(水)、「全国児童委員研究協議会」が横浜市で開催され、主任児童委員という立場で出席させていただいた。
 子どもたちを取り巻く環境は、厳しい状況であるということ、もう一步

踏み込みたいが踏み込みにくい現代にジレンマを感じながら、いろいろな立場で、子どもを守りたいという思いの中で、様々な支援をしている多くの人たちがいらっしゃることを知るよい機会となった。

2. 「悩みを持つ方との関わりについて」

先日、児童の「登校しぶり」などで悩んでいる保護者から、「話を聞いてほしい」とあり、お会いした。

まずは保護者の話だけ聞くということでお話を伺い、ご本人の了解を得て、学校へ相談された内容を繋いだ。その児童のことは、学校もしっかり把握し、見守っているとのことであり、今後、保護者とも更に連絡を取っていきたいとのことだった。

私から保護者の方には、負担にならない程度に定期的にメール等で連絡し、子どもさんの様子や、日常の何気ない話などをするなど、繋がりを切らないようにしようと思っている。

3. 「絵本の読み聞かせについて」

月曜日の朝は、小学校へ「絵本の読み聞かせ」に行っている。

一年生なので、子どもたちは元気なおしゃべりをしているが、絵本を読み始めると、いつの間にか静かになり、じいっと聞いてくれている。

また、本を通して、子どもたちと掛け合いをしながら楽しむこともある。私の子どもも7年前に小学校を卒業したが、「絵本の読み聞かせ」をさせてもらっていることで、しあわせな時間をいただけて、「ありがたいことだ」と思っている。

教育長

1. 「小学生児童虐待について」

先般、児童虐待による小学4年生の死亡事件が発生した。学校が行った「いじめアンケート」で「親からの虐待がどうかにならないか」と児童からあったことを職員が知り、管理職や学校、教育委員会がどのように対応したのか重く受け止めることであった。

学校、教育委員会、児童相談所、警察の連携のあり方が問われていると思った。その事件後、児童虐待の認知件数は約8万人となっているが、これは氷山の一角だと思う。物言わぬ子どもたちは、まだまだいると思う。

先般のテレビ番組の中で、子どもの電話相談が増えてきていて、相談内容の一例は、「これは虐待になるのでしょうか」というものであった。これは現状、親から受けている行為について、虐待なのかどうなのか、また、母親から「あなたを生まなければよかった」と言われることなど、やりきれない気持ちになる内容であった。私が昨年ぐらいから非常に気にしている「家庭の教育力は何なのだろうか」。つまり、親のあり方はどうあるべきか、もっと言うと、「親が親になりきれていない大人をどう再教育していくのか」ということを、学校、教育委員会、関係機関などそれぞれが真剣に考えていかなければならないといけない時代になったのではと、危機感を感じている。

2. 「様々な会議について」

年度末を迎え、様々な会議が開催され、本年度の事業報告や総括、新年度の事業計画などが原案として上がっている。結果、着実に一步ずつ前進しているのではないかと思います。

しかしながら、行事や研修会などにおいて、ビルド（新設）だけではなくスクラップ（廃止）していかななくては、市役所の業務量の膨大により、職員にしわ寄せが出てきていることを危惧している。

教育委員会の各事業においても、スクラップできることはないか、年次的にできることはないかなど、段階的に考えながら、無理のない範囲でやっていくべきであろうと思う。

3. 「～夢の翼～事業について」

3泊4日で香港に、垂水中央中の先生2名、生徒10名、指導主事と研修に参加した。

世界的にもアジアでも、活気のある香港という街を見るだけで、子どもたちの意識も変わるのではないかと思いますことであった。

わずか10名の生徒だったが、子どもたちが変わっていくきっかけを作ってくれたのではないかと思います。

この研修に参加できなかった子どもたちにも、いろいろな形での報告やプレゼンテーションで経験したことを報告して、思いを広めてほしいと思う。

市内の小校区や会合などでも、今回の研修の報告会をしてほしいとの声もあることから、参加した子どもたちが地域や会合の中で直接報告し、研修したことを還元してくれる予定である。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長

1月11日から2月12日までの主な行事等について報告。
併せて、3月11日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会